

家庭科の男女共修をすすめる会

# 会報

'88 秋

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11  
婦選会館内 〒151

振替 東京九一―一九一八九一

発行 一九八八年十月二十九日

## 学習指導要領は間もなく決まります

教育課程審議会の答申を受けて、文部省では新しい学習指導要領作成の作業をすすめています。

小・中の新指導要領の基本的方向を示す「学習指導要領改善の要点」(2・3ページ参照)は七月に発表され、その趣旨説明が各地で行われていますが、共修に対して文部省は

依然として積極的にはならないようです(4・5ページ参照)。世話人会では指導要領決定に向けてかさねて要望を出しました(6ページ)が、十一月末に示されるはずの「素案」に注目していただきたいと思っています。

小・中の学習指導要領の発表は年末、高校は来年三月の予定です。

## 来年春、全国交流集会を開きます

学習指導要領が発表されるといよいよ家庭科共修は本番となります。全国で実質的な共修がすすむよう、情報交換を密にしながら運動をすすめましょう。

中・高の学習指導要領が決まったらすぐ、全国交流集会を開催します。89年度の総会を

含め、四月一日(土)、四月二日(日)の二日間にあわせて、東京で開く予定です。詳細は次の会報でお知らせしますが、どうぞ予定に入れておいてください。出席できない方も郵便で各地の情報やご意見をお知らせくださいますように。

## もくじ

学習指導要領は間もなく決まります……	(1)
来年春、全国交流集会を開きます……	(1)
学習指導要領改善の要点について……	(2)
文部省予算概算要求から……	(4)
文部省は強調する……	(4)
「技・家」指導要領への要望書……	(6)
図書「家教連20年のあゆみ」……	(6)
いろいろな集会から……	(6)
母親大会……	(7)
家教連夏季集会……	(8)
'88 We 夏季フォーラム……	(8)
日教組自主編成研究講座……	(9)
女性による民間教育審議会……	(10)
高齢化社会をよくする女性の会……	(10)
とうきょうプラン実施細目説明会……	(10)
図書「いのちとくらしをいとおしむ」……	(11)
連絡会報告……	(12)
世話人会報告……	(13)
質問状グループ報告……	(14)
活用して下さい、新パンフ……	(16)
'88年をふりかえる会……	(16)
相談をお寄せください……	(16)

# 学習指導要領「改善」の要点について

和 田 典 子

今夏文部省が行った「昭和63年度教育課程講習会」で、資料として配布された「改善の要点」の「中学校教育課程編」から「技術・家庭」の「内容改善の視点」として列記された項目を要約してご紹介します。（幼稚園、小学校編も同時に配布していますがここではそれらは省略しました。）

「資料」は、総則と各教科、道徳、特別活動にわけて、目標や内容改善の要点が示され、「技術・家庭」では、

- (1) 領域構成の改善として、現行の1、2、3などの小領域を一本化してA木材加工、B電気、C金属加工、D機械、E栽培、F情報基礎、G家庭生活、H食物、I被服、J住居、K保育の11領域に改める。
- (2) 内容改善の視点として、

## ア 基本的な考え方

。情報化の進展や家庭の機能の変化等に対応するため「情報基礎」及び「家庭生活」を設けるとともに、現行の領域についても内容の改善を図る。

。実践的・体験的な学習を重視する。  
。題材の選定に当たっては、授業時数及び各学校や生徒の実態等に応じて弾力的に扱うことができるようにし、地域の特性等を生かした題材の選定をすることができるようになる。

## イ 内容改善の視点

A～Kにわけて内容改善の視点を列記しています。まとめたのはこの部分です。  
前後しますが「履修の方法」については、「改善の基本方針」で次のように示しています。

- 。7領域以上を、男女別の差異を設けず、3ケ年で履修させる。
- 。木材加工、電気、家庭生活、食物は必修。
- 。木材加工と家庭生活は一年で履修させることを標準とする。

授業時数については「総則」で次のように定めています。1年70、2年70、3年70、その他2年から選択教科がおかれることになりませんが、今回はふれませんでした。

## 「技術・家庭」改善の要点

・新しく加えられた内容、科目は傍線で示します。

・技術的領域については簡単に記します。

## 必修領域内容改善の視点

### G 家庭生活（新設）——1年での履修が標準

- ① 家族の生活（家庭の機能、家庭生活の意義、家族関係及び地域との関連）
- ② 家庭の経済（収入や支出、物資・サービスの選択・購入・活用、消費者としての自覚）
- ③ 家庭の仕事（種類や内容、作業手順や計画、簡単な衣食住の実習）

### H 食物（現行1、2、3を統合）——2年（または3年）

- ① 青少年の栄養及び日常食の献立（基礎事項を重点的に示し、扱う）
- ② 食品の性質と選択及び日常食の調理（題材の弾力化、調理と関連づけて食品、食事作法）

### A 木材加工 ——1年

- ① 木製品の設計
- ② 木製品の製作

### B 電気 ——2年（または3年）

- ① 電気機器の保守
- ② 電気回路の設計と製作

## ◎履修の方法についての改善

右の4領域は、すべての生徒に履修させる。また、男子と女子で履修の範囲が異なる取扱いを改め、男女同一の取扱いとす。

A、B、G、Hは35単位時間を標準とする。

## 選択領域内容改善の視点

### I 被服

- ① 被服の製作（題材の弾力化、立体的構成の被服、製作を通して生活と被服の関係）
  - ② 手芸（ししゅう、編物、又は染色のいずれかを被服製作と関係づけて弾力的に）
- ※現行1、2、3を総合し、製作を通して衣生活を快適にする能力を養う。

（被服整理はカット）

### J 住居

- ① 空間の計画（食事、団らんなどの空間の適切な使い方）
  - ② 室内環境と設備（G領域・小学校の内容を除き、衛生的な住まい方、安全管理）
- ※現行通りの目標、住空間の活用能力中心

### K 保育

- ① 幼児の心身の発達（現行通り）
- ② 幼児の生活（遊び道具の製作を通して幼

児の理解、食生活・衣生活はもっと総合的に）

※現行通り、幼児への関心を高めるのがねらい、生活習慣、発達と環境などはカット

### C 金属加工

- ① 金属製品の設計
- ② 金属製品の製作

### D 機械

- ① 動く模型
- ② 機械の整備

### E 栽培

- ① 現行の環境調節利用を改め普通栽培中心に
- ② 栽培計画・作物の栽培

### F 情報基礎（新設）

- ① コンピュータの仕組み及びコンピュータの基本操作、簡単なプログラムの作成
  - ② コンピュータの利用及び日常生活や産業の中で果たしているコンピュータの役割や影響
- ※コンピュータの操作を通して、情報を適切に活用する基礎的な能力を養うことを目標とする。

選択領域の取扱い、指導計画の作成など

- (1) 2年、3年の選択「技・家」は、生徒の特性に応じ、未修領域のほか、既修領域をさらに深める学習や、地域的色彩のこい内容など多様に展開できるようにする。
- (2) 必修領域の授業時数は、35単位時間を標準とする。
- A、Gは1年で扱うことが標準とされているのは、後の内容の基礎であるからと理由づけられている。（H、B及び他の領域の学年指定はない）
- (3) 第3学年における授業時数は弾力的に運用する。
- (4) 題材の選定に当たっては、授業時数及び生徒の実態などに応じ、弾力的に扱うことができるようにすること。

## △その他▽

- (1) 実践的・体験的学習の重視、生活に必要な知識、技術習得が基本的な教科の特質。
- (2) 社会変化への対応のため、G、F領域を新設。
- (3) 選択領域を設けたのは、生徒の個性を生かす教育の充実のため。
- (4) 領域の統合は、内容を精選し、基礎基本の充実をはかったもの。（この部分はほとんど全面的に書きかえられた。）

## 文部省 予算概算要求から

大西 歩

文部省が八月三十一日に大蔵省に提出した一九八九年年度の概算要求の中から、家庭科関連の記述を内外教育誌からひろってみる。

一九九四年度から高等学校の家庭科が男女必修となり、「家庭一般」に「生活技術」と「生活一般」が加えられるのに備え、「家庭科」を担当する教員等を対象に新科目の実技指導講座を開く。期間は六日間で、家電製品や情報処理の基礎理論、故障時の扱い方、消費者保護の法令や各種保険の知識などについての指導力の向上を目的としている。

初等中等教育局では、家庭科新科目の実技指導講座に五百万円を充て、現在、家庭科教師は約一万人だが、講座の対象は百二十人（一会場四十人、三会場開設）に、五年計画で千人程度の受講を期待しているようだ。一方、「学校でのコンピュータ利用推進」については、今年度千三百万円から千九百万円に増やした。また、「情報処理教育担当教員養成講座」は今年度千九百万円から三千二百

万円に、対象を中学校技術・家庭科で今年度百二十人から四百人に、高等学校で今年度と同じ百六十人に増やしている。

## 文部省は強調する 「男女共修」ではなく 「男女共学」!! 「教育的配慮です」ん?!

芦谷 薫

8月22日、27日、文部省は産業教育指導者養成講座を開きました。視学官津止登喜江氏、教科調査官河野公子氏による「家庭科教育の動向」の中で、次のような話がありました。

- (1) 高等学校教育課程改訂スケジュール  
告示：昭和64年3月  
移行措置：昭和65年、昭和68年（教員の研修、趣旨徹底、教科書作成など行う）  
実施：昭和69年より学年進行で
- (2) 今次改訂における家庭科教育の位置づけ  
家庭科教育にもとめられていることは、社会の変化に主体的に対応できる生徒を育てる、八親としての役割をしっかりと教えることである。この二点は、普通教育としての「家

庭一般」「生活技術」「生活一般」のどの科目においても、中学校の領域「家庭生活」の上にたち、きちんと教える。また、三科目とも4単位であり、「生活一般」を2単位+2単位と誤解しないように。（この点に関しては、当講座で再三強調されている。）

- (3) 条件整備について  
中間まとめにはなかった「早期に条件整備を」という文言が最終答申には入った。これは、「本腰を入れよ」との教課審の文部省への警告と受けとめている。従って、教員養成や施設設備については予算をとり、前向きに取り組んでいる。現在、施設設備について、現行有数を全国調査しており、家庭科の設備のない公立高校は全国で約700校あることがわかっていて、施設設備の基準についても指導要領改訂に伴い、改められるであろう。

教員の増員については、大規模校では一校当り家庭科専任は2人、6学級規模で1人と講師（選択科目を置く場合は専任2人）がいる。中学校は生徒数が減少していくので、そこから高校に転用するなど考えられるが、ともあれ各都道府県で対応されることであろう。

研修に関しては、69年度に備え、今からでも男子を教えることに慣れて欲しい。例えば

選択科目の「食物」などの講座を置いたら、そこでは「家庭一般」の食物領域をあつかい「家庭一般」として指導して欲しい。

### (4) 男女共修という言葉について

『同じ場所と同じ教材を』という要望書が文部省に寄せられている。また国会でもこの問題がとりあげられているが、これは生徒個々への教育的配慮、個性を生かす教育を無視した要望であり、教育の本質にはずれるものである。従って「男女共修」とはいいわない。

また、ねらいは役割分担廃止などと他教科の教師から出されて、混乱、誤解を生じている。この教科は、「男女ともよき家庭人になるように、女子だけが家庭人ではなくて、男女が共に協力して、そしてこれからの時代に生きる各人が、たくましい男女が父親なり母親なりとして家庭をつくる」という意味で男女とも学ぶ家庭科として必修になった。従って「共に学ぶ家庭科」又は「男女共学」と表現し、「男女共修」ではない。内容は同じで結構、しかしそこには教育的配慮があるわけだから学習形態は共学、別学どちらでも自由である。よって「男女共修」という言葉はつかわない。

### (5) 普通科の家庭科教育について

必修科目の単位は現行32単位から38単位に

増加するが、今回家庭科教育は、必要だということと男女共4単位となったのだから、他教科に遠慮することはない。又4単位の必要性を他教科に理解してもらえよう。

### ア) 家庭一般

社会の変化に対応して内容の改善がなされている。すなわち、産業構造の変化に対応するため、従来「家庭生活の設計・家族」の中で扱ってきた「家庭の経済と消費」を新たに一項目起こし、高齢化社会への対応として、「介護、福祉」に関する内容を加える。又情報化社会への対応として、コンピュータを活用した指導の工夫（家計簿、栄養計算など）をする。被服に関しては、製作も含め男子も同様に行う。製作については小学校は現行どおり（エプロン、カバ―平面構成）、中学は題材指定はしないが解説書で、バジヤマ、ゆとりのある上衣下衣、パンツ、ベストなど（立体構成）をとりあげる。中学校までの被服で何をやってきたのかの把握の上で、実態に応じて行うように。平面構成のものは小学校でやってきているのでエプロンは不可。

### イ) 生活技術

家庭生活に関する基礎知識（家族、家庭生活、家庭経済、保育）と生活の管理（衣食住の管理）100時間、電気機械、情報処理に関する

る知識と技術・40時間が内容。電気機械、情報処理の内容は、家庭生活に使っている電気電子機器の機能、原理を知り、活用管理ができるような内容を検討中。また情報処理の内容は、家庭生活における情報の現状、機械の扱い方、実際の操作などをとり入れた。

### ウ) 生活一般

前半は、衣食住を家族の健康管理として扱う。座学中心。後半は食物、被服、住居、情報、保育、福祉と家庭介護などを実習を中心に。前半後半の順序性を変える可。男子校等が施設設備の関係で当分の間代替することもあるが、早期に実施すること。

### (6) 家庭に関する学科について

「家庭一般」は基礎科目として。新設の専門科目は、「家庭情報管理」「家庭看護・福祉（介護福祉士の資格取得）」「消費経済（消費生活コンサルタントをめざす）」「課題研究（全職業学科に置き、資格取得に結びつくもの、例着付け等）」である。（以上、テープより要約）

この講座を受けた方々は、各地で伝達講習をされるそうです。又各地での伝達講習の様子を交流し合って、男女共修の家庭科の実施に協力しましょう。

## 中学校「技術・家庭」 についてかさねて要望

世話人会では次のような要望書をつくって  
文部大臣および文部省の担当官に送りました。

### 要望書

家庭科教育と男女平等教育について、私たちはこれまでたびたび要望をして参りましたが、中学校の新しい学習指導要領の決定の近い今、「技術・家庭」について、次のことをかさねて要望いたします。

1、男女いっしょに学習するよう明記してください。

他の教科は男女いっしょに学習するの  
に、「技術・家庭」だけ男女別の学習が行  
われれば、学習する内容は同一であって  
も、「家庭生活へのかかわり方は男女で違  
いがあって当然だ」という意識を育て、  
「男女の役割についての定型化された概  
念の撤廃」を求めている女子差別撤廃条

約に反することになります。  
積極的に差別をなくす方策をとらなけ  
れば差別は続いて行くものです。  
女子差別撤廃条約の精神にそった積極  
的な努力をされることを切望いたします。

2、選択領域が家庭的、技術的領域のどちら  
かに偏しないよう明記してください。

積極的に差別をなくす方策として、男  
子は「技術」を多く、女子は「家庭」を  
多く学習するというのを防止しなけれ  
ばなりません。男子も、女子も、「技術」  
と「家庭」の両方をしっかり学習させな  
ければなりません。

「技術」と「家庭」は本来別の教科と  
すべきですが、一つの科目にすることは  
すでに決定していますので、両方の領域  
について同じ時間数の学習をすべきこと  
を明らかにしてください。

3、領域の学年指定をしないでください。

各学校の実情に応じて、一番適当な学  
年で学習できるよう（二学年以上にわた  
る学習も含めて）にしてください。

### 図書紹介

#### 家教連20年のあゆみ

— 家庭科の男女共学ひとすじ —  
家庭科教育研究者連盟編

ドメス出版刊

創立二十年を迎えた家教連の歴史とと  
もに、戦争前夜から今日までの家庭科教  
育の変遷を、現場の実践を中心にしてま  
とめたものです。

家教連の出版物とこれまでの大会や機  
関誌のテーマなどを一覽表にした資料編  
もついています。

A4版 三三〇〇円

4、教育内容から「男女の役割についての定  
型的な概念」を徹底的に排除してください。

「家事、育事の責任は女性が負うべき  
もの」、あるいは「父親と母親の役割は  
違う」と受けとられるような表現は絶  
対にしないでください。

（高校家庭科の指導要領についても、文部省  
の基本的な考え方が示された段階で、もう一  
度要望を出す予定です）

## いろいろな集会から

### 東北で母親大会

佐藤 慶子

第三十四会母親大会が、七月三十、三十一  
日の両日岩手で開催されました。東北での大  
会は、成功があやぶまれましたが、地区の労  
組の支援などもあり、成功のうちに幕を開け  
ることが出来ました。

しかし、なにぶん東北各県の距離は大きく  
離れていますので、私の周辺では参加者がな  
く、県南の人を見かける程度でした。私は、  
第十八分科会、男女平等教育、家庭科共修の  
もんだい、に助言者として出席しました。

分科会は四十名余の出席者があり、遠く東  
京、大阪などからも参加者がありました。

### ○家庭と教育をめぐって自己紹介

参加者の自己紹介があり、それぞれのほか

れている状況が出されました。専業主婦のお  
母さんは少なく、半数以上が教師、それに働  
らいているお母さんが二・三割といったこと  
ろでした。参加者は、男女平等の問題につい  
てはかなり意識がはっきりしており、家庭生  
活でも子どもの教育姿勢でも、そのことを実  
現しようとしている様子が語られました。し  
かし、教師の側の発言は、職場でも子どもの  
学習傾向についても問題を感じている様子で、  
子どもの生活体験の欠如が相変らず不満とし  
てあげられていました。また、家庭内で子ども  
の平等教育には成功しても、夫への対応はな  
かなか困難との声があり、いかにも本音らし  
い平等の現実がかい間みられました。

### ○家庭科共学を迎える状況ともんだい

家庭科の問題については、国際婦人年の趣  
旨と家庭科の改革動向を私が説明し、討議に  
入りました。

家庭科の状況については、男女共学推進の  
動向（佐賀、兵庫）などが語られる一方、私

学（兵庫）から、女子も家庭科の学習能力に  
バラつき、学校の家庭科のねらいをもっと明  
確に（岩手）、小学校の家庭科研究不振では  
（秋田）と疑問や不満も出されました。  
中では、お母さん教師の発言らしく、健康  
づくりで した障害を少なく（青森）も出  
ました。

また、家庭科の学習にとって男女の差が問  
題ではないという発言も三重などから出され  
ていました。

そして、教育内容がすぐ役立つものに性格  
変化しているのでは（佐賀）、家庭科教師がコ  
ンピューター導入にまき込まれている（愛知）  
などの不安も語られていました。

しかし、いずれにしても家庭科が男女共学  
になるという時代状況は反映されており、し  
ばしば感じられる家庭科の共学なんていつの  
ことか、というような雰囲気がないのが驚ろ  
きでした。私が特に発言を求めて、女子学生  
を教えてみて、いかに男女差がないかを実感  
し、もっと女性の能力を正當に評価してほし  
いと指摘したことに関して、あるお母さんか  
ら、その女性の在り方の足をすくっているも  
のに、母性へのめり込みがあり、それを女  
性自身が自覚する過程の大切さについて発言  
があったことが印象的でした。

## 家教連夏季集会報告

— 共学共修問題を中心に —

持田 ナミ

今年の集会は23回目を迎え、7月27日から三日間、「いよいよ家庭科の男女共学必修——教育課程審議会答申の検討——」をテーマに、新潟で開催された。

①臨教審路線をめぐる情勢を明らかにする。  
②教課審答申を批判・検討し、我々のめざす男女共学の家庭科教育を明らかにする。が今次集会の課題となり、各分科会で話し合った。

### △中学校分科会▽

教課審答申・指導要領案について——履修範囲に男女差を設けない。「家庭生活」の履修について標準にする（指導要領案で変る）の二つは歓迎する。

「家庭生活」は道徳教育にするのではない。「家庭生活」に衣食住が入っているが総花的。全部の領域を履修できない学校では「家庭生活」に衣食住があることは利用の仕方ではよいかもしれない。などの発言はあったが、生徒指導や生徒や教師に対する管理強化の問題が当面の課題でその発言が多く、教課審答

申については、教わりたいたい、勉強したい、というのが本音のようだった。

### △高校分科会▽

「四単位必修」というが果してできるか、生活一般を選べば実質は「一単位になる」「指導主事が別々にやるように指導している県が出てきているが、本当に共学になるか」など半信半疑で参加した印象が初めはあったが、四単位共学を実現した報告、答申が出てから共学でやれ、という動きが出てきたなどの発言や、文部省は「別学は考えていない。男女差は考えていない」と回答した。という報告もあり、だんだん参加者の確信も深まり、職場で他教科に積極的に理解を求め、四単位を実現しよう。自分の職場から別学にすることはやめよう。など発言もあり確認しあった。

男女共学は、国際的に意義のあることで、家庭科だけの問題ではない。との助言があり、家庭科教師としての責任で共学を実現させなければならぬことを認識した。

### 88 We 夏季フォーラム

#### 家庭科分科会報告

8月6日～8日

磯部

幸江

「家庭科——わたしを変える、くらしを変

国語、青年講座、がとりあげられた。

#### 家庭科部会の全体会 初日、一時間目は、

和田典子講師より、①自主編成とは何なのか、日教組教研、今日までのあゆみ、②今後、なにが問題か、③子どもの実態、④政府、財界は文教政策として家庭づくりをどうすすめるか。⑤その学校教育版としての臨教審、改訂の意図するものは何か——と問題提起があった。

これをうけてフロアより、「共修が使われているが、なぜ日教組コトバの、共学の必修をつかわないのか」（北海道）「中学校に選択をおくイキサツをしりたい、中学校の選択は文部省交渉をして、のぞきたい」（岡山）などの発言があった。

その後、小中高別、三クラスに編成。中学校分科会の報告

「共学段階の取りくみ」佐藤慶子講師より、共学の実践報告、衣、櫛田真澄。保育、佐川加寿子。食、磯部幸子、の発表をうけて討議。討議での発言から、共修、改訂案に関係した声をひろってみると、「保育学習—生命尊重の視点—は、男女共に学習させたい。選択ではなく、実践してそうおもっている」（熊本）。「保育学習は選択では困る。私は自主編成して三年で学習するつもりだ」（東京）「技術科

具体的に身近なことを教材にして、何よりも教師が楽しくておもしろいと思うことを授業を通して生徒に していきたいものである。  
(3)、行動していこう  
魅力ある授業、豊かな内容の授業を続けて学校内で発言していく事ももちろん重要だが共修が制度として確立したこれからは、地方自治体に働きかけて条件整備をしていくのも重要である。公開質問状などを出して、人員の確保、設備充実のための予算がきちんととれるように運動を続けていこう。少しずつでも前進できるよう取り組んでいこうと確認された。

### 第九回日教組自主編成研究講座

#### 家庭科部会報告

(主として中学校部会)

本橋 靖子

日教組、自主編成研究講座が、一九八八年八月二四日～二七日と四日間にわたり、長野県蓼科高原で開かれた。

家庭科参加者小学校21県45名、中学校27県44名、高校15県26名。

二日目の二五日～二七日まで教科別が行われた。(二六日午前は特別講座、特活—卒業式、入学式—が入る)。今回の教科は、家庭、社会、

える」をテーマに三つの柱を立て、家庭科教師を中心にその想いを語り合った。

#### (1)、共修を実現するために

大阪、松原高校の中杉さんが、組合婦人部が中心となって、職場全体で討議を重ね、女子教育の一環として共修を実現させた経過を語ってくれた。教課審答申が出されてから、各地で組合やその婦人部が中心となって、検討委員や推進委員会が持たれるようになった。高校での家庭一般4単位獲得の運動や実践事例集や共学実現のための手引書の作成などの活動がすすめられているという報告もあった。しかし、コンピュータの導入、進学校における単位獲得、家庭科教員のいない学校などかかえる問題も多く、現場であたふたとしていいる現状もある。一人でも仲間を増やし、今回の教育改革も広い視野でみて、力をあわせて取り組んでいくことを話し合った。

#### (2)、自分にとって授業とは

神戸、東灘高校の大洋さん。現代社会でバナナを取り上げて、そこに存在する様々な問題に気づかせる授業の話を聞き、魅力的な家庭科の授業を創るにはどうすればよいかを出しあった。自分の生活を見直し、社会のしくみを学び続ける生徒を育てていきたい。明日の授業をどうしようと思ひ悩む事も多いが、

は共学のとりくみがおくれている、技術科は共学に反対しているという誤報もある。技術科といっしょになって共学の運動をすすめることで家庭科教師も共学がやりやすくなる」(大分)(岡山)

(東京)より、改訂の問題点(和田提起)を、しっかり確認しよう。'69年全面実施にむけてどういう内容で授業するか、自主編成していこう」と提案があり、つづいて「今、出来ることとして、和田講師の訴えにこたえ、十二月本答申が出るまでに、文部省に現場の教師として申し出る。個人かサークルでハガキ行動を。」(鳥取)と提案があり、全員賛成、申し出る問題点を確認しあった。①2、2、3時間にしてほしい。②「家庭生活」の学年指定はとる。③「情報処理」は家庭科教育での基本的な内容ではない——。

共修のすすめ方として「サークルを月一回例会をもっている。授業についての意見交換合宿研。自分の生き方も問われる。サークルはたのしい。自主編成の授業がたのしい」(熊本)と体験が語られる。参加者一人づつ全県の状況が話されたが、サークルの有無が、共修をすすめること(共修の授業実現、共修内容編成)カギであること、今、急務であること、また、あらためて痛感した。

## 高齢化社会をよくする 女性の会シンポジウム

9月5日  
駒野 陽子

高齢化社会をよくする女性の会は、朝日マリオン・ホールで第7回老人問題シンポジウムを開催。今年のテーマは、女たちは日本の老人福祉に発言する。で、今年3月、樋口代表はじめ35名が行ったヨーロッパ老人福祉セミナー・ツアーの報告(午前)、を柱に、4つの分科会(午後)がもたれた。その第3分科会「いかに老いるか、自立と共立」の中で家庭科をめぐる意見が出された。①男性の老人が、生活的な自立に欠けているため、本人はもちろん、妻家族が苦しんでいる②家庭科の中で男も、女も自立した老いを迎えられるよう、保育と同じように、老いの自立について学び、老人介助の実習もさせるべきだ③老人になってから自立を考えたもおそいので、すべての人に子どもの時から自立教育をしなくてはならないが、そのために小、中、高の男女共修家庭科が期待される。などがあつた。高齢化社会に突入した現代社会の中で、老人福祉問題が、カリキュラムにどう組みこまれるべきか、を共修家庭科も含めて、検討する

ことの必要を考えさせる討論であつた。

## 女性による民間教育審議会集會

駒野 陽子

女性による民間教育審議会は9月23日園秋分の日に、主婦会館で、臨教審から一年、この息苦しさはなんだ!と銘打って集會を開いた。第一部は、臨教審答申以後「何がどう変わったか」臨教審改革の意図を読む」のレポート。第二部は「近ごろ私のところでは……」というテーマで、校則、体罰、入試、初任者研修、社会教育の場の変化など、子ども、大人、女、男入りまじって自由に発言を交換し、現状を語り合った。第三部は「さて、これから私たちは」というシンポジウムで、佐々木賢、俵朋子、永畑道子、吉峯康博、そして当会の世話人の半田たつ子がシンポジスト。司会も同じく世話人の樋口恵子という顔ぶれ。教育課程・指導要領が変わって、共修家庭科がスタートしよう、としていることについては、二部ではほとんど発言がなかったのが残念。家庭科共修は、問題の多い新教育課程の中では、ただひとつ、望ましい改訂ととらえられていて、その中味の問題性についてはまだま

だ知られていないのかもしれない。さらにPRの必要がありそう。パンフ「スタート!新しい家庭科」を会場で販売した。

第二部では、半田たつ子さんが、家庭科男女共修がスタートすることにはなったが、内容はコンピュータ教育と抱き合わせの、私たちが望んでいたようなものにはほど遠いことになりそう。特に臨教審態勢のもとでは、共修家庭科が、よい親になるための教育として組みあげられていく恐れがあることを指摘した。私(駒野)は、第二部の司会をしていて、次々と出される現状の問題点を取りあげながら、誰か家庭科について発言してくれないかと思いつづけていたが、さしせまった子どもや親たちの悔みが多くて、とうとう触れることができなかった。共修の会の人たちに、個人的に前もって発言をお願いしておけばよかったと悔まれた。

婦人問題解決のための新東京都行動計画「男女の平等と共同参加へのつぎようプラン」昭和63年度実施細目」説明会 八月二十二日 石川 由紀

一九七九年に「家庭科を男子が履修するにふさわしい教科と位置付けた」のが自慢の東

京都。「婦人問題解決のための新東京都行動計画」の中・高等学校家庭科における男女共修の推進の項目も、その実施時期、つまり達成度は教育庁の判断では、中学はA(最終段階)であり、高校はBである。昨年と同様である。そんなに進んだのであろうか。

事業の内容が、研究と報告書作りと資料作りである以上、現場での到達度とは別に、計画は順調に進んでいることになるらしい。ところで、指導上の留意点や男子の履修についての留意事項、研究結果を示したこれらの報告書は、家庭科の男女共修の推進にどのように役立って行くのかを訊ねてみた。

このような報告書は各学校に一冊宛位は配布しているそうである。必ずしも家庭科の先生の手に渡っている訳でもなく、知らされている訳でもないようである。ということは、家庭科教師は、常勤、非常勤にかかわらず、自らの職業意識で教育庁に随時問い合わせるしかないようである。しかし、今後「資料の活用の促進を図る」そうであるから、その成果に期待したい。

また都は文部省に対して、「家庭科の履修が、新しく告示される学習指導要領にそって実施できるよう条件の整備を図りたい」と要望を出しているという。そこで、文部省の指示

がなくとも、教課審の答申等から予想される

事態、すなわち、家庭科教員的大幅増員、施設の増設など、都独自ですめられることも多いと思うが、その推進状況を、と質問をしたところ、新学習指導要領が出てから、それにそって、という回答しか得られなかった。

新課程に対する準備がこのような状況で、果して、家庭科の男女共修の推進が、最終段階であるといっているのだろうか。一体どのような男女共修の家庭科をすすめるようとしているのだろうか。単にお役所だから、と見ていていいのだろうか。

## 図書紹介

「いのちとくらしをいとおしむ」

——家庭科新時代へのまなざし——

半田たつ子著 国土社刊 一、三〇〇円

人間らしい生の真実をいのちとくらしをいとおしむことをどのようにして伝えたらいいのか。そのことにこだわって家庭科を考え、生きてきた私。

(はじめに「より」)

こんな半田さんが、いのちとくらしをいとおしむすべての人に呼びかけます。

女性に家庭責任を押しつけるこ

とに役買ってきた、女子必修

の家庭科が否定された今こそ

さあ、窓を大きく開いて、太陽と薫る風を招き入れよう。

家庭科へのまなざしを変えて、と。

この本には、共働きの、家庭科を教え大学で講義し、共修をすすめる会や民教審などの市民運動や、雑誌「We」をつくる行動のなかから、湧き出た思いを綴られたものを集められています。

ひとつひとつが時にはユーモラスに時には鋭く、実例や実体験を引きながらいていかに語られ、いのちとくらしをいとおしむことを軽視してきた日本の教育に警告を発しています。なかでも、後半の「家庭科をめぐって」「これからの家庭科」には、まやかしくない男女共修家庭科を成立させるために学校現場でひとりで頑張らねばならない私にとって、強力な支えが出来た思いがします。さらに支えを強力にするために、学校内外の多くの人にも読んでもらいたいと考えた私は、「家庭科へのまなざし」を変えてもらいたいと願うあなたにも是非お知らせしたいと筆をとりました。

(芦谷 薫)



# 国際婦人年日本大会の 決議を実現するための

## 連絡会報告

和田 典子

### △「行動計画」作成にむけて▽

連絡会では、現在、二〇〇〇年にむけてわたしたちの「民間行動計画」のとりまとめに力を注いでいます。そのための準備として、いくつかの課題について関係者からのヒアリングを行い、それをふまえた上で「行動計画」を起案し、協議にもちこむという手順をふんでいます。ヒアリングの日程は、

6・3 — 兼松佐知子さんから、少女買売春の実態と課題について

6・20 — 外務省経情協力局の下荒地課長より、政府の開発援助制度と援助の実態、問題点について

7・5 — SSDⅢ（国連軍縮特別総会）に参加した中村喬一氏とNGO10団体の代表松下さんからの報告および、アフリカの経情委員会所属で、帰国中の中氏より、国連開発基金UNIFEMについて

7・15 — 国連広報センター副次長中村恭一

氏より、SSDⅢの概要について

7・23 — パートタイム労働問題専門家会議に参考人として出席した飯島礼子（働く婦人の会）さんの報告

8・31 —

(1) 税制改革案と婦人関係について — 大蔵省主税局、加藤治彦氏

(2) 同右（配偶者特別控除を中心に） — 婦人税理士連盟、遠藤みちさん（消費税を中心に） 粕谷晴江さん、などでした。

連絡会では、学習の成果を「行動計画」に反映させる一方、税制問題について「会」としての意見をとりまとめることになりました。△「行動計画」のとりまとめについて▽

9月18日の常任委員会で、次のことが決まりました。

(一) 起草委員会（世話人、書記、各分野の責任者などで構成）を10月4日午後ひらき、左について協議をすすめる。

① 総論案（世話人が起案）

② 分野毎の「まえがき」案の検討

③ 分野別の行動計画案のすり合わせ

④ 全文を通してのチェック、印刷

(二) 発表のための集会、プログラム案

（名称）世界人権宣言四十周年

・性差別をなくす女性たちの人権集会

### — 民間行動計画の発表 —

（日時）12月10日午後1時半 ～ 4時半

（会場）主婦会館

（規模）各団体4～5名、計二〇〇名位

（内容）

- ・ あいさつ、経過報告
- ・ 各界連帯メッセージ
- ・ 記念講演（交渉中）
- ・ 民間行動計画の発表
- ・ 全体討議（どのように計画を推しすすめるかなど）

尚、右の原案は10月17日の全体会にかけた上正式に決定する予定です。

△税制改革と婦人問題について政党の意見をきく▽

9月19日、午後2時～5時、憲政記念館で、上記の集会をひらき専業主婦控除や消費税に対する各党の態度などについてききました。各党30分づつと持ち時間が少なく、税制改革一般論に終り、婦人問題にまでつこんだ話をきくことはできませんでした。六政党それぞれの政策・対応の相違をつかむことができませんでした。消費税に対する批判的スタンスも野党五党間にニュアンスのちがいがあることがわかりました。

## 世話人会報告

### △七月二日▽

☆話し合ったこと

1、50団体から民間行動計画の「家庭・福祉」分野について、（案）が出され、話し合いました。

2、新しいパンフの売り方については

三千部、七月中の完成の予定。各団体の夏の大会に売り込む。

3、リーフの配り方について

積極的に、夏の各集いに配ってもらう。

4、母親大会に、「会」としてすべきこと

山形の佐藤さんに連絡をとり、対処する。

5、東京都への質問状に関連して

七月中に文書を出すか、九月の口頭質問にするか、三井マリ子さんと連絡をとって質問状を出す。

6、国会への働きかけ

情報教育に対して様々な意見、情報が流れているので、これに関して聞く。

7、秋のイベントに関連して

石川さんから、具体的な案を出してもらう。

### △七月三十日▽

・「スタート／新しい家庭科」新しいパンフ完成。さっそく家教連の集会で販売した事が

### △九月三日▽

いろいろな集会の報告や、パンフ、リーフの販売、配布状況について話し合ったあと、次のことを決めました。

・リーフの増刷 ・会報秋号の執筆分担 ・中学「技術・家庭」についてもう一度要望書を出すこと。その要望項目とだんどり。更に、秋のイベントのすすめ方について検討、春休みにも集会を開くことにしました。

（梶谷典子）

### △十月二日▽

別掲の津止氏発言をめぐる話題、中学校技術・家庭について、文部省に送る要望書の検討とだんどり、来春の全国交流集会の構想などが主な議題でした。

全国の自治体で婦人問題を担当している部課に、持田さんがグリーンパンフを送って下さったの反応、婦民や国際女性の地位委が、家庭科を取り上げてシンポを開くこと、中嶋さんが長年バックアップしてこられた所沢高校の家庭科の先生が、いよいよ来年四月から共修実施を決定されたこと。グリーンパンフの売れゆきなどから、確実に歩は進められている実感を持ちました。

ただ、十一月二七日のイベントが、「男の子育てを考える会」単独でやりたいということと、「会」の協賛が白紙にもどりました。そこで「会」は来春四月一日、二日を、全国交流集会、総会、実践報告など多彩な内容を持つものとして、全力を挙げようということになりました。

年末には中学校、来春三月には高校の指導要領が告示されます。グッドタイミングですね。ここまでは来ててもなお、女子差別撤廃条約に無理解の上、共修・共学という言葉をあいまいに使って現場をまどわす文部省担当官に公開質問状を出し、国会でも取り上げてもらうことにしました。

（半田たつ子）

## 質問状グループ報告

石川 由紀

### 東京都に男女共修家庭科への進捗状況を問う

「文書質問趣意書」から――

新教育課程移行に備えて、東京都はどのような対応をしているのかと、会員の三井マリ子都議が「文書質問」を出した。以下はその要約である。

質・中・高の家庭科の男女共修にむけての東京都の年次計画を、中学については移行措置開始年度である64年度までと、新課程実施開始年度である68年度までに分けて、高校についてはそれぞれの開始年度、65年度と69年度までに分けて、次の項目についてご回答いただきたい。

- ① 都立高校について
- ② 担当教員の研修（専任の担当教員がいな場合はどうするか）
- ③ 校長・教務主任の研修
- ④ 担当教員の増員計画

④ 施設・設備の拡充

⑤ 各学校における教育課程編成についての指導方針、並びに指導計画

⑥ 各科目の内容及び履修の取扱いについて（公立中学校について）

① ⑤は前掲と同じ

⑥ 各領域の内容及び履修の取扱いについて（私立中・高について）

① 各学校に対しての改定教育課程に関する周知徹底のための計画

② 担当教員の研修

③ 校長・教務主任の研修

④ 担当教員の増員（特に男子校、及び共学校の場合）

⑤ 施設・設備の拡充（右同）

⑥ 教育課程編成上についての指導方針、並びに指導計画

⑦ 各科目又は各領域の、内容及び履修の取扱いについて

答・新しい学習指導要領の告示を受けて、具体的な内容、方法の検討を進める考えである。全面实施までの予定は次のとおり。

- ・新「教育課程移行措置基準（仮称）」の作成及び説明会の開催（中Ⅱ63、高Ⅱ64、Ⅱ65）
- ・新「教育課程編成基準（仮称）」にかかわる資料の作成（中Ⅱ64）

・新「教育課程編成基準（仮称）」の作成及び説明会の開催（中Ⅱ65、高Ⅱ66、Ⅱ67）

・実験校を指定し、研究成果を各校に普及する（中Ⅱ65、Ⅱ67、高Ⅱ65、Ⅱ68）

・新しい教育課程の移行措置を行う（中Ⅱ64、Ⅱ67、高Ⅱ65、Ⅱ68）

・新教育課程の全面实施（中Ⅱ68、高Ⅱ69以後学年進行による）

・私立中学については、私立学校法等により自主性が尊重されており、法の定めにより自主的に決定されることが原則である。

質・年次計画を立てるに当たって現場家庭科教員の意見、要求のくみ上げ、反映について、その具体策を伺う。

答・各基準の作成委員、実験校の研究、関係団体の要望・意見の把握に努めて参りたい。

質・都民・教育関係者への広報活動について、経過並びに今後の具体策を伺う。

答・指導資料や教員研修を通じて、普及啓発に努めている。今後も啓発資料の作成や、実験校の設置等を通して普及啓発に努める。

質・家庭科教員定員増の特別措置が必要と考えられるが、そのための計画の有無は。

答・国の教育課程の基準の改訂を受けて、選択科目、単位数等の具体的事項を定めていくことになるので、これらをふまえて今後

検討して参りたい。

質・男女共修家庭科の新設に伴い、一学級当たりの生徒定員の上限枠を定める必要があると考えるが、そのための計画の有無は。

答・学級編成基準による一学級を単位として展開することが原則である。

◇

この質問作成に当たっては、芦谷・和田・石川が何度か検討したり、多数の方々の意見を盛り込んで、私たちが要求するものを知ってもらったことを含め、今後の活動や状況展開に役立つ情報の収集を考えてのものだった。このようにすっきりはぐらかされてしまった。前号でお知らせした都の指導主事三人との会合と、何ら変わらない答えしか引き出せなかったことは重ね重ね残念である。

文部省の指示を待っている都の地方行政、地方自治とは一体何なのだろうか。私立学校はそんなに自主性が認められているのだろうか。この回答書を手にして思うのは、環境整備の遅れを理由に、男女共修家庭科の実質的骨抜きが図られているのではということである。すなわち、法は尊重するが全面共修というのは未だ無理、などという詭弁である。

私たち質問状グループはこれからも活動を続けて行くが、各地の会員の方々も、是非、

### 新教育課程への

#### 国会文書質問を要請

八月三日

所属する自治体や議会へ、どしどし質問状を出して欲しいと思う。そして、全国の会員にその状況を知らせて欲しい。

尚、議員による文書質問は議会開会中に限るそうであるから、意を一にする議員に是非話を持ち込んで、聞き出してもらいたい。

九月に出るのではないかと言われていた中学校の学習指導要領が先送りになっている中、文部省は新教育課程の家庭科をどのようにすすめるのかとして、江田五月氏を衆議院の文教委員でいらっしゃる江田五月氏を和田・石川が訪ねた。いつも国会で当問題に関して質問をされている氏であるが、次から次へと出てくる国会運営の諸問題のために、当問題に関する国会質問がいつできるか分からない状態にあるということ、それでは、文書質問という形で現状を問うていただきたい旨をお願いをした。

その内容のいくつかをいうと、

☆高校

① 現在共学校四三六二校、男子校四〇〇校、

女子校七〇八校であり、三〇〇の工業校が共学校に含まれていることを考えると、七〇〇校には家庭科の設備がないと考えられるが、文部省の対策はどうなっているか。

② 男女必修になるが各高校に専任を一人は置くとあるのか。

③ 「生活一般」を選択した場合の体育との代替措置を初年度には〇に持って行く考えはあるのか。

④ 家庭科実習室を多機能にするという話があるが、衣と食分野を一しよにしても安全か。

☆中学では

① 男子校についてはどのように指導するのか。

② 実質的に男女別学になるような指導がとられる危険性はないのか（選択と定員の関係）

③ 「情報基礎」の強制など技術偏重の心配。

④ 生徒数の減少と教員定数との関係が及ぼす家庭科教員の確保との問題

この他、「生活技術」の家庭生活に関係のある生活技術とは何か、「生活一般」の代替容認の場合とはどのような場合か、「家庭一般」以外の家庭科を教えるときの免許法との関係は、又、家庭科を三つに分ける教育学的意味、などに関しても質問をして欲しいと伝えた。

未だ回答はもらっていない。



## 活用して下さい、新パンフ

パンフレットグループ

半田たつ子

この夏休み前後、長野県で共修家庭科をいち早く実践したA先生のもとには、たくさん  
の家庭科の先生方が訪ねたということです。  
ところが、その方たちがあまりにも情報にう  
といことに驚いた。こんなに様々な単行本や

### 88年をふりかえる会へどうぞ

教課審答申のあと、中学校指導要領発  
表までの一年間をふりかえり、89年の展  
望を語り合います。

お申し込みは石川世話人までどうぞ

東京都世田谷区上野毛四一九―一二

電話〇三―七〇―一八五七八

とき 十二月二十六日(月)

午後六時から

ところ 渋谷・じよあん

電話〇三―四六四―七二六三

おかね 料理四千元(飲物代別)

雑誌が出ているのに、とA先生のお便りにあ  
りました。

「情報ほしい」との言葉はよく聞きますが  
「情報を得るため」の努力(というほどでも  
ない)をせずに、右から左へと、すぐ役立つ  
ものを、すぐ欲しい、という人が多いことに  
歎息します。で上がった最新のグリーン・  
パンフ「スタート／新しい家庭科」この一  
冊だけでも読んだり、人にすすめたりしてい  
ただきたいものを、と願うのです。

中学校では五年先、高校では六年先という  
男女で家庭科を学ぶ日は、刻々と迫ります。  
いや、その前に移行措置が始まりますし、す  
でに今年の四月からいち早く共修をスタート  
させた大阪府立松原高校もあります。

中・高校の家庭科は、新教育課程でどのよ  
うに変わるのか。これを「共修をすすめる会」  
では、どう受けとめ、どんな要望を文部大臣  
に提出したか。共修が決まるには、どんな運  
動があったのか。女子差別撤廃条約は生かさ  
れているのか。などは、学校やサークルなど  
の学習会に格好のテキストになります。

中学・高校で新しい家庭科をいち早くスタ  
ートさせるために、学校で、研究会で、組合  
で、地域で、どんな取り組みができるか、し  
てきたかの紹介は、あなたがやれる方法を考

### 相談をお寄せください

家庭科共修について疑問や悩みをお持ち  
の方が多いと思います。どうぞ何でも  
おしらせください。世話人ができるかぎ  
り直接お答えいたします。

会員以外の方の相談もお受けします。

事務局へ郵便でどうぞ。

世話人に直接ご連絡くださっても結構  
です。

(相談をお寄せくださった方のお名前  
や相談内容を無断で公表することはあり  
ません。)

え出すヒントになります。

職員会議などで胸を張って主張できるよう  
に、活用したい資料も用意して、コンパクト  
ですが、隅々まで使いこなしていただければ  
あなたの強力な助っ人になること確実。夏休  
み中の家教連やWeの集まりをはじめとして、  
幾つもの研究会からまとまったご注文があ  
りました。私は日本女子大の家庭科教育法の  
講義でも全員必携としました。たった300円、  
送料一部70円です。ご活用下さい。